

クリムソクローバーの栽培試験

松 本 聰

九州農業試験場

MATSUMOTO, S. Describing the Results of Experiments
with Forage Yield on Crimson Clover

I. 緒 言

クリムソクローバー *Trifolium incanatum* は西南アジア及び東南ヨーロッパに自生し、フランス、ハンガリーその他南欧諸国に広く栽培され、アメリカ合衆国では東部州の中央地帯で緑肥、飼料作物として最近重要視され、わが国でも戦後各地で試作が行われている。性状はその名称が示すように花色が深紅色で、草丈は60cm程度、茎葉は赤クローバーによく類似し、葉は丸型で、茎葉多数の毛茸が密生している。頭花は卵圆形で、長さ4~6cmでクローバー類中で最も長い。草型は立性で1株茎数が20~50本である。早、中、晩生に区分される数種の品種(系統)があり、早生種は開花期が4月下旬~5月上旬、晩生種は5月下旬~6月下旬である。種子は赤クローバーの約2倍の大きさで、クローバー類中最も大きく、黄色豊円で、硬実も少く発芽率はよい。採種は熊本では早生種は梅雨期迄に可能であり、晩生種は採種期が雨期に入り、採種はやゝ困難となる。土壌は砂質あるいは粘質土壌によく生育し、他クローバーに比較して石灰、磷酸の要求量が少い。またこのクローバーは欧米の分布地よりみても暖地のものであり、わが国の試作成績も関東以南で良好であり、暖地向のクローバーとして奨励されている。開花期が他クローバーに比較して極めて早く、早春に刈取が可能であり、生草収量は9月中旬に播種すれば1,200貫が得られている。

九州では極めて多様な輪作体系の中へ容易に導入が出来るクローバー類の要望は切実であり、早春に利用出来る葎科飼料作物の選定も緊要である。

筆者は1950年早生クリムソクローバー(U・S・A産)を入手し試作の結果生育良好で採種も容易であったので、1952年に九州での播種適期及び刈取後の再生の有無を知る目的で試験を行い、その成績を得たので報告する。

II. 試験方法

- (1) 供試品種 早生クリムソクローバー
- (2) 播種期及び刈取期

播種期及び刈取期

1 度 刈		2 回 刈 取		
播種期	刈取期	播種期	1 番 刈	2 番 刈
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
9.20	5. 3	9.20	12. 3	5. 4
10. 1			1.20	
10.10			2.20	
10.20	5. 9	10. 1	3. 4	5.14
11. 1			4. 4	
11.20			2. 4	
12. 1	—	10.10	3. 3	5. 4
3. 1	6.16		4. 3	
4. 1	7. 1		3. 3	
			4. 3	5. 4

(3) 耕種概要

畦巾2尺、条播、播種量(反当kg)7.8、蒔付 施肥量(反当貫)堆肥100、硫酸3、硫酸加2、2回刈は1番刈後硫酸(反当貫)1施用した。

(4) 試験区の大きさ 1区0.5坪、2区制

III. 試験成績

(1) 1度刈 各播種期について開花期に刈取り、第1表に示す生草収量を得た。生草収量は9月20日播種が最も多く6,577.5kg(反当)で、播種期のおそくなるにしたがつて生草収量は減じ、11月20日播種は生草収量は極めて少く、12月1日播種は霜害で全株が枯死し、春播きの生草収量は著るしく少い。一般にクリムソクローバーの播種適期は9月中旬~10月上旬とされているが、九州では11月上旬播種でもかなりの生草収量が得られ、播種期の巾はいくらか広い。

(2) 2回刈取 クリムソクローバーは1年性であるので、開花期に1回刈取るのが本体で、再生力は弱いとされているが、早秋に播種すれば旺盛な生育を示し、草丈もかなり伸長するので生育途中で時期別に刈取り、その後再生したものについて開花期に2番刈を行い第2表に示す生草収量を得た。

第1表 播種期当り青刈生草収量 (反当 kg)

播種期	刈取期	生育日数	生草収量
月日 9.20	月日	日	
10. 1	5. 3	225	6,577.5
10. 1		214	3,858.0
10.20		204	4,861.5
11. 1		194	4,974.6
11.20		190	3,321.0
12. 1	5. 9	175	1,986.0
3. 1	—	(全株枯死)	
4. 1	6.16	107	1,125.0
	7. 1	91	544.5

備考：開花期に刈取を行った。

9月20日播種を時期別に1番刈した生草収量は、生育時期のすゝむにしたがつて増加し、3月刈取に比較し4月刈取の生草収量は著しく増加する。

1番刈後再生した2番刈の生草収量は1月20日に1番刈を行ったものが最も多く、2, 12, 3, 4月の順に生草収量は減少している。

10月1日, 10月10日播種は、1番刈を早い時期に行つたものが2番刈の生草収量が多い。

9月20日播種で2番刈を行つた総生草収量は、1番刈を1月20日に行つた場合が最も多く、この場合の総生草収量は開花期に1度刈したよりも多い。

第2表 1番刈及び2番刈生草収量 (反当 kg)

播種期	1番刈		2番刈		総生草収量
	刈取期	生草収量	刈取期	生草収量	
月日	月日		月日		
9.20	12. 3	927.0	5. 4	4,620.0	5,547.0
	1.20	1,254.0		5,754.0	7,008.0
	2.20	1,218.0		4,650.0	5,868.0
	3. 4	1,626.0		3,282.0	4,908.0
	4. 4	3,873.0		5.14	990.0
10. 1	2. 4	543.0	5. 4	3,690.0	4,233.0
	3. 3	813.0		2,880.0	3,693.0
	4. 3	1,830.0		5.14	767.4
10.10	3. 3	756.0	5. 4	3,240.0	3,996.0
	4. 3	1,953.0		738.0	2,691.0

備考 2番刈は開花期。

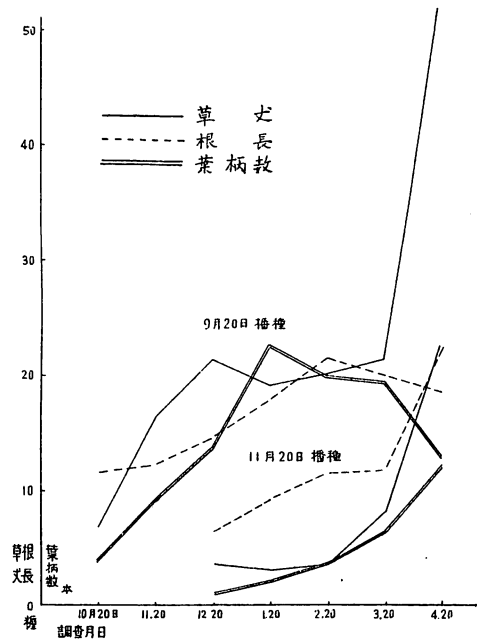
(3) 生育調査 9月20日(早期), 11月20日(晚期)播種を生育時期別に草丈, 根長, 葉柄数を調査し, その成績は第1図の通りである。早期播種は根長は漸次伸長するのに反し, 草丈は気温の低い期間は伸長を停止し, 4月には急速に伸長する。葉柄数は1月まで漸増し, その後は減少する, これはクリムソクローバーの特徴であり, 比較的早い時期に下葉が枯死する。晚期播種は早期播種に比較して草丈, 根長の伸

長少く葉柄数の増加も少い。晚期播種では草丈よりも根の伸長が大である。

IV. 要 約

(1) クリムソクローバーを九州農業試験場(熊本)

第1図 早播き及び晩播きクリムソクローバー生育調査



において, 1952年9月~1953年4月の間9回播種し, 1度刈取あるいは早期播種は2回刈取を行いその生草収量を調査した。

(2) 1度刈は9月20日播種が最も生草収量が多く, 播種期がおそくなるにしたがつて生草収量は減じ, 春播きは秋播きに比較して生草収量は極めて少くなり。一般に9月上旬~10月中旬が播種適期とされているが, 九州ではかなりおそく11月中旬まで播種が可能である。

(3) このクローバーは再生力が弱く, 開花期に1度刈するのが本体であるが, 九州の如き暖地では生育途中で刈取れば再生はかなり旺盛で, 2番刈の生草収量も多い。

(4) このクローバーは暖地向の1年性クローバーで, とくに早春の草立ちが早く, 生草収量も多いから桑園, 麦作の間作あるいは果樹園の下草, エンバク, イタリアンライグラスとの混播等に栽培するのに適し, なお採種が容易であるので今後九州の畑作地帯の飼料作物あるいは緑肥作物として有望なクローバーである。